

戦争参加へ改憲「大きな後退」

マハティール氏 平和憲法称賛

【ニューヨーク共同】マレーシアのマハティール首相(九三)は二十八日、国連総会の一般討論で演説後、記者会見し、日本の平和憲法を称賛。マレーシア憲法を改正して武力行使を制限することに改めて意欲を示した。日本の改憲の動きに触れて「戦争に参加できるようにする改正なら、大きな後退だ」と語った。

演説後会見で



28日、ニューヨークの国連本部で記者会見するマハティール氏=UN Web TVより

大国間や地域での貿易紛争、中東での紛争などに触れて「経済、社会、政治すべてで世界は混乱している」と指摘。英国による欧州連合(EU)の離脱や、日本と中国、韓国の間で「確執」が残っていることなどを例示し「今の世界は

国連創設時に比べ、団結できていない」と述べた。会見に先立つ総会での演説でも、ニューヨークの国連本部に来たのは二〇〇三年以来で、当時から大国に力が集中し、小さい国々は従属的な立場にあると批判していたとし、「世界は十年前よりずっと悪くなった」と指摘していた。マハティール氏は今年五月、十五年ぶりに首相に返り咲いた。大の親日家として知られる。

国連の場で意義を 市民団体働き掛け

マレーシアのマハティール首相に対しては、埼玉県日高市の市民グループ「S.A.9(九条を支持せよ)キャンペーン」が、国連の場で憲法九条の意義を語ってほしいと働き掛けていた。中心メンバーの在日ドイツ人平和歴史学者クラウス・シルヒトマンさん(五七)は本

紙の取材に「私たちが望んでいた発言とほぼ同じ内容だ。とても勇気づけられた」とマハティール氏の発言を歓迎した。シルヒトマンさんらは、マハティール氏が八月に来日した際、憲法九条に就いて自国の憲法を改正する考えを表明したことに注目。



今月、マレーシア首相府に同氏宛ての親書を送り、国連で九条の価値に触れ、各国が憲法に同様の規定を設ける重要性を訴えてほしいと要望していた。市民グループは、国連総会での憲法九条の支持決議を目指している。憲法に平和規定を持つ国や非

武装国を中心に、在日大使館や国連本部に趣意書を送付。非武装国パナマや世界的に影響力があるバチカン市国の在日大使館を訪れ、大使らと意見交換してきた。マハティール氏への働き掛けもこうした運動の一環だ。今後は運動にマハティール氏の発言を取り入れ、賛同の輪を広げていきたい考えだ。事務局を務める政治学者の大森美紀彦さん(六六)は「マハティール氏の発言にはとても感動した。小さな市民運動だが、これからも頑張っていく」と話した。(安藤美由紀)